

会 議 録

会 議 名	嵐山町介護保険運営協議会					
開 催 日 時	令和2年9月25日（金）	開 会	午後1時30分			
		閉 会	午後2時30分			
開 催 場 所	嵐山町町役場 町民ホール					
会 議 次 第	1. 開 会 2. あいさつ 3. 諮 問 第8期嵐山町高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定に関して 4. 議事録署名人の選任について 5. 議 事 （1）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査について （2）第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について （3）今後のスケジュールについて （4）その他 6. 閉 会					
公開・非公開の別	公 開	傍聴者数	0 人			
非公開の理由 (非公開の場合)						
委員出欠状況	会 長	吉田 典生	出	委 員	大木 伸秀	出
	副会長	安藤 勲	出	委 員	山田 昇	出
	委 員	中澤 和英	出	委 員	小屋野 賀津美	出
	委 員	山下 道子	出			
	委 員	中西 敏雄	出			
	委 員	杉田 文子	出			
	委 員	石井 彰	出	出席者10人 欠席者0人		
事 務 局	副町長 高橋 兼次					
	長寿生きがい課長 萩原 政則			包括支援担当 簾藤 久史		
	長寿生きがい担当 菅原 広子			長寿生きがい担当 伊藤 典子		
	(株)サーベイリサーチセンター 板倉 丈					

次 第	顛 末
1.開 会	萩原課長
2.あいさつ	会長
3.諮 問	高橋副町長より会長へ諮問
4.議事録署名人の選任について	事務局>2人ずつ名簿の上から順番に署名人をお願いする。今回は、会員名簿の2番・3番、中澤和英様、山下道子様をお願いしたい。
5.議 事	<p>事務局>資料の確認</p> <p>(1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査及び在宅介護実態調査について 事務局>高齢者福祉計画・介護保険事業計画(第8期)策定のための実態調査結果報告書に基づき説明 会長>重要な点の説明をいただいた。その他のところでも結構なので、ご意見があればお願いしたい。</p> <p>委員>調査の方法と回収状況で、3ページに数が出ていて、2の在宅介護実態調査について、発送件数200、回収数・回答数151とあるが、その結果の内訳が65ページにある。回収数151を基数として、男性・女性の内訳が男性47、女性104と書いてあり、女性が男性の2倍超となっている。200のうち男性・女性の内訳はわかるか。回答・回収されなかった人が49いるわけだが、女性のほうが圧倒的に回答が多く男性が極端に少ない。いろいろな介護の状況を見ると、男性の方が少ない傾向というのを何かの機会に伺ったことあるが、男性は、例えば要介護度を調査する場面で普段は、できない人が、調査の段階になると張り切ってしまう、そういうことを表に出さない傾向にあると伺ったことがある。この回答の比率にしても、男性と女性について、男性のほうがそういうことで回答しなかったのかなという気がちょっとしたもので。調査数200の内訳の中でも男女の比率がこのぐらいあったのか伺いたいと思う。</p> <p>事務局>この在宅介護実態調査というのが、介護認定を受けていて在宅で生活している方ということで、その方が嵐山町において298人いた。その内、男性が98人で女性が200人いたので、そこを勘案して200人を抽出した。</p> <p>委員>200人の内訳というのではなくトータルで298。男性98、女性200、大体1:2、比率的にはほぼ同じということだ。</p> <p>事務局>そういうことです。</p> <p>委員>男性と女性が1:2というのは、先ほどのようなケースも伺っているが、どういう捉え方をすればいいか。</p> <p>事務局>やはり女性のほうが長生き、元気なこともあり、国のほうで100歳の方の人数の公表があったが、埼玉県でも、女性が2,562人、男性379人でした。男性で100歳を超える人は本当に少ない。そういう関係もあるのではないかと思う。</p> <p>委員>人数的に圧倒的に多いのはその90、100歳ではなくもっと下の年齢だろう。それでもやはり女性のほうが倍もいるということか。いろいろ、他の機会にも聞いたことがあるのは、男性のほうが表に出てくるのが少ない傾向があるというのは聞いている。そういうこととも関係があるのかと思った</p>

のだが、単に人口の比率として捉えられているわけだ。いろいろな参加のチャンスなども女性と男性では男性が極端に少ない気がする。例えば習い事とかも、交流センターなどで行われているいろいろな活動に対しても、私も参加させていただいているが、圧倒的に女性が多い。だから、それも単純に人口の割合なのか、比率なのかなどと思っていたところだ。その辺を、本当のところもそうなのかどうかということ、何か気にされていないのかなという気がしていたもので。

委員>私もあまり知らないが、イメージ的に、家の中で男性・女性がいて、例えば、同じ病気の重い状態でも、男性が要介護状態になったとしても、それを女性の方がカバーできてしまうので、男性は認定を受けなくても済んでいる人というのが、たぶん、多いと思う。ただ、男女で住んでいて、女性のほうが不自由になると、男性がそれをカバーできないから、女性の方が認定を受けて、認定を受けるというのが必然的に多くなっているのかなということはある。だから、その辺の、男性・女性の料理ができる・できないだとか、身支度ができる・できないとかのカバーのしかたで、男性が悪くなっても、奥さんのほうがみてあげられるから、男性はどうしても認定数が少なくなっているのかなと思う。介護施設に入ったりする男性・女性の割合も、たぶん女性のほうが入っている割合が多いと思う。

委員>繰り返しになるが、以前、要介護認定調査員の話で、男性はその場になると強がって介護度を低い認定にされることがあるのではないかと感じているというお話を伺ったことがある。本当のところを把握するという意味で、今後いろいろな調査をする上で、当然ご存知だとは思いますが、そういうことがあるというご認識をいただきたいと思っている。

会長>今後、事務局のほうで調査のときは参考にさせていただくということではいかがか。

他にあるか。特になければ、(1)の議題についてはご承認いただけたものとさせていただきます。よろしいか。

(異議なし)

(2) 第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定について

事務局>国の方針、スケジュールについて、全国介護保険担当課長会議資料を基に説明。基本指針の構成について、資料2-1を基に説明。地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部を改正する法律について、資料1を基に説明。嵐山町第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の計画構成について資料を基に説明。

会長>(2)について、何かご意見はあるか。

(特になし)

よろしいか。また何かあれば最後に伺いたい。とりあえず、(2)第8期高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定については、ご了承いただけたものとさせていただきます。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局>資料「計画策定支援業務工程表(案)」に基づき説明

今年度については4回の会議開催を予定している。1回目は本日、国の基本指針やアンケート結果を説明させていただいた、2回目は11月末頃を計画しており、計画素案を作成させていただくのでそちらの検討をしていただ

き、1月中旬ぐらいに再度素案の検討をして、パブリックコメントを行う。2月後半にパブリックコメントの結果報告、最終確認をして策定できればと考えている。

会長>スケジュールについてご質問はあるか。
(特になし)

(4) その他

事務局>事務局からは特にはないが、もしよろしければ、今年度初めての会議なので、お一人おひとり、今後の活動の課題や、コロナ禍の中での活動対応、クラスターの関係、PCR検査の関係等何かあれば一言いただければと思う。

委員>その前に質問がある。調査結果資料の75ページ、現在抱えている傷病の中で、認知症が一番高い36.4%とあるが、認知症と判定する基準は何だったか。

事務局>判定というのは医者が診断し認知症と判定するものです。

委員>これは、あくまでもアンケートの回答に基づいて、回答者が自分は認知症だと、あるいはご家族がそういう回答をされたという、おそらくそのままだと思う。私の認識が低くて認知症とは何だったかと思った。

事務局>介護認定を受けるためには、医師の意見書が必要になる、医師の意見書の中に認知症というのが病名として載ってくる。本人にも伝えているのではないかと思う。

委員>ということは介護認定受けている方ということか。介護認定を受けていない方で認知症の方もいらっしゃるかなという気がする。

事務局>そういう方もいらっしゃると思う。

委員>あくまで調査の結果、回答に基づいたものということか。

事務局>この在宅介護実態調査については、介護認定を受けた方が対象になっているので、おそらくそういう、医師からの診断が出ているものと考えられる。

会長>他にはよろしいか。それでは、(4) その他の中で、事務局からお話があった件について、何かあれば。最初に私から。特にはないが、私は老人ホームの管理者なので、この時期でも結局、今までにないわけなので、対応が非常に難しいというか、結局は中に入らないようにするしかないので、非常に皆さんに迷惑をかけてしまっているが、ほとんど面会などご遠慮いただいている。特別具合が悪いとか、そういうときはなるべく短い時間でお会いしていただくことはある。一時は人数が全国的にも埼玉県でも少なくなったが、こここのところまたコロナが非常に増えている状況のまま、少しは減っているが高止まりしている状況だと思う。少なくとも我々のような施設の場合だと、かなりそういったことで今まで通り制限をさせていただくという状況にある。職員もいろいろ外出等は自重してもらうようにしている。かなり心苦しいが、そういうことを常に職員が考えている、そういう状況だ。いろいろ国の方針も変わったりしている中で、福祉や医療といったところは、ある意味結構ギリギリでやっているような感じがある。やむを得ないだろうが経済もある程度考えなければいけないということで、今の状態も段々緩和せざるを得ないのかなというところだ。一方でこれ以上また増えたりすると結構厳しい。内容がはっきりわからないことがいろいろあるので難しいが、結局は自分たち一人ひとりが気をつけるしかないという感じがする。

委員>感じたことをお話ししたいと思う。皆さんが資料を御覧になった通り高齢化が進んでいる。私も75歳になり、後期高齢者に入ったが、私と同じような高齢者が、また2、3年で多くなる。いろいろな資料でもわかるが、ここ数年はまだまだ老人が増えていく。その中で、介護保険事業も大変な時代で、それにまた皆さんお話しいただいている認知症が大きな問題で始まってきて、どうしても増えていくのではないかと思う。体のほうもだが認知症もずいぶん加わっていく気がする。ここ数年は大変かと思うが、それにはもう健康寿命というか、元気な、お医者さんに行かない、介護状態にならないでいいような方が増えるというか、私のような高齢者が何か元気でいられるような事業を、いろいろ町でも考えてやっていただいていると思うが、その辺については、介護保険のほうからもご意見が出て、事業も若干出ているのではないかと思う。これについてはどういうお考えがあたりか伺いたい。

事務局>ふらっと嵐トレというのをご存知か。おもりを使った百歳体操とか嵐丸体操とか、そういった事業が、今、町内9か所で始まっている。ただ、今年はコロナの関係があるので、まだお休みしてところが実際にはあるが、徐々に始まっている。介護予防に非常に良いということで、大変評判の良い事業なので、是非、そういった活動もやっているの、お声掛けいただければご案内させていただきます。

委員>わかった。

委員>私どもの親戚の人で、私よりも20歳以上ちょっと年上の夫婦だが連れ合いの女性のほうは認知症になってしまって認知症の施設に入っている。もう1人の夫たる人は下半身が良なくて、頭は大丈夫なので別の施設に入っている。認知症になった奥さんのほうは、もう子どもとすれ違ってもわからない状態だ。その連れ合いの夫たる者は、頭がしっかりしているので、施設に行くのを最初嫌がったが、その逆だったら奥さんが面倒を見るのだが、奥さんが認知症で、連れ合いが足腰が不自由で介護することができなくて、2人とも別々の施設に入っている。コロナでなかなかお会いできなくて、お嬢さんのほうにどんな状況か聞いたら、施設もいいものかなと思ったという。もうずっと在宅介護がいい、在宅介護がいいと思っていたのだが、施設でみんなと同じ歳ぐらいの人が一緒に生活するという事は、話題も合うし、いいことかなと思ったのは、戦争体験者で、毎日、朝起きて、距離を置いて集まるらしいが、戦争の話をして、ああだったよね、こうだったよねと話をして、そうだよねと言って、また翌日にはその戦争の話をして、ああつらかったよね、でもあれは面白かったねというふうに、とても明るく生活しているのだそうだ。家庭にいるとなかなか、息子さん、娘さんたちに介護してもらうのは申し訳ない気持ちもあるし、いつも同じ話題で盛り上がり、すごく楽しそうだと。おじいちゃんどう、と娘さんが聞いたら、全く楽しいよというふうに返事が返ってきたという。私も絶対在宅介護してもらいたいと思っていたが、同じぐらいの年の人たちが集まって談笑したら、それはそれでいいのかなというふうに思った。

委員>私も、母の介護をしていた経験があるが、当初はあまりこういう施設もたくさんなくて、本当に、家でみるのが当たり前、預けるのはちょっと白い目で見られるかなという時代の介護だったが、役場の方からこういう施設を利用したほうが良いのではないかと、若い方が倒れちゃったら終わりよと、いろいろな援助をいただき、週に3回くらい通うことができる通所介護を利用させていただいた経験がある。とても私的には気持ちが楽になってよかつ

たなというふうな経験がある。おばも今、通所に行っているが、もう家にいるときには本当に1人でテレビを見るか、誰かご近所の方が来ない限りは話もしない状態で、どんどん介護度が上がっていく状態だったが、やはり、そういうことで、通所を始めたらすごく明るくなって、介護度がどんどん下がっているという状態だということ、それは良かったなという思いで、だから、介護のそういう運営もいろいろ大事だなというふうに感じている。この会議に出させていただいて、私も経験不足だが、いろいろお話をいただいで勉強中なのでどうぞよろしくお願ひしたい。

委員>先ほど会長からもお話があったが、施設の現状についてお話しする。現在、特養と、訪問介護、デイサービスと行っているが、特養のほうは、緊急事態宣言が5月25日解除になって、その後、7月いっぱい面会をやっていたが、またコロナがはやってきたので、8月からは施設の内線電話を使ってガラス越しの面会をしている。今もそれは続いている。それと、ショートステイが12床あるが、単発のショートは避けて、ロングの、大体1か月単位のショートステイを受け入れている。これについても、昨年、ショートを受け入れをしてインフルエンザがはやって、だいぶ保健所にも迷惑をかけたので、今回はコロナの関係で、ショートステイもロングで受け入れている。それと、デイサービスは続けているが、なるべく利用者には、家でみられる人にはみていただいて、全くやめてしまうと家族崩壊が起きるので、今、利用者は若干少ないが続いている。ただ、病院等の受診があったときには4日間デイサービスを休んでいただいているような状況だ。訪問介護についても、必ず利用者には検温をして、その後に利用していただくということをやっている。あと、職員については、毎朝検温をして、体調が悪い人については出勤しないようにということで申し付けている。何しろ毎日ドキドキしているような状況が続いている。これからどのようになるのか、また、インフルエンザ、コロナ、両方がはやってくると、本当に施設の職員もギリギリでやっているの、先行きが本当に不透明で、本当に心配している。それと私も、私の両親と、妻の両親、4人介護でみていた。本当に大変だったので、病院と施設を利用させてもらって、本当に助かった。私1人ではどうにもならないので、妻にも手伝ってもらって、いずれにしても妻には、だいぶ容易ではないことをさせてしまったが、いずれにしても施設と病院には本当に感謝している。

委員>病院からきており、今、看護部長をさせていただいている。玄関で、訪れる方には全員検温をしていただいで、自覚症状がないか15項目のチェックをさせていただいてから院内に入らせていただく。また、入院している方の面会はすべて禁止なのだが、先生から許可があった方のみ、あと、回復期リハビリ病棟は家に帰るための準備で、許可のある方だけは上げている。それと、リモート面会とって、スマホをお持ちの方とか、タブレットで、ない方は病院にお越しになって玄関脇の面談室で病院がお貸しして、面会をリモートで行ってもらっているかたちだ。あと、通所リハビリ、地域ケアリハビリステーションは、春先にはやったときに一時ストップしたが、また再開している。バスを一時ストップして、自家用車でお越しになれる方だけ始めていたが、最近埼玉県は少し減ってきたので、また、うちの病院で利用しているバスでお迎えしている。それと、居宅支援事業所、去年は退職者も出てケアマネジャーが不足していたが、3名揃えたので、どうぞ利用していただければと思う。それと、おおむらさきの訪問看護ステーションも充実はし

ているが、一時やはり家族の方から来てほしくないという方は、行かないようにしていて、先生に電話で薬だけ出してもらって看護師が届けるという感じでやっている。ソーシャルワーカーも、昨年、一挙に5人一緒に辞めてしまったので、募集をかけて、6月末に5人揃ったので、すべて以前と同じように取り扱えると思う。医療相談があれば玄関のインターホンを通して受けている。退院支援ナースもそこに配属して、以前、地域連携とか医療相談といていたが、患者支援センターとして看護師も配属しているので。相談も受ける。その中に居宅支援事業者も入れて、13名が1つのフロアでいるので、情報交換はできると思う。何かご相談があればよろしく願います。それと、インフルエンザワクチンは。嵐山町は10月7日からと聞いている。嵐山町役場とうちの病院でも受けている。ご利用いただきたい。

委員>社会福祉協議会では、訪問介護と居宅介護という2つの事業所があるわけだが、今も、利用者の方のお宅に訪問するには注意をさせていただいて訪問しているというかたちで職員には話をして、検温、マスク、消毒、いろいろ基本的なことは注意しながら行動するようというかたちで話している。それと、この調査票の44ページの(5)で、家族・友人・知人以外の相談相手というので、この中に社会福祉協議会、民生委員という18.1%というかたちで3番目に高いわけだが、今後も、社会福祉協議会として、相談しやすいような場にしていければと思っている。よろしく願いたい。

委員>先ほどの委員の話の中にあっただが、私もいつ施設のお世話になるかわからないということで、そういった先々の勉強のためにも参加させていただいているというのを、一番最初の自己紹介でさせていただいた記憶があるが、さっきの委員のお話で、私も常々、もしそうなっても在宅がいいなと正直思っていた。先ほどの話を伺って、それもそうかなという気がちょっとしたが、この調査資料の中で、直接そのことに触れているのではないが、外出しない理由の中で、その他が70%もいて、その内訳は、コロナについてがほとんどだという注記があった。施設に入りたいか、入りたくないか、その調査がどこかにあったが、その中で在宅が半数近くあったと思う。その内訳の理由の中で、慣れている家がいいというのが圧倒的に多いが、施設に対する不安があるという人数は非常に少ない。先ほどの外出をしない理由の中でコロナということになると、施設にお世話になりにくいという中に、コロナだけではなく、前々からニュースになることがあったが、例えば食中毒、インフルエンザ、集団生活の場なので、そういったことに対する不安もあるのかなと。施設にお世話になりたくない理由の1つに。先ほどの委員のお話で、皆で集まって共通の話題をという面に関しては私も同感だが、そういった不安があるのではないかなと。私自身も正直ないわけではない。今、施設側の皆さんの努力やご苦勞、こういったお話を聞いてだいぶ安心させていただいたが、こういった施設はこういった努力をしているのだよ、安全に十分配慮されているのだよということを、こういう場だけでなく、一般の、さっきのアンケートで施設にお世話になりたくないという、こういった人たちに対しても、もう少し何か発信する方法はないのか。少しでも安心してといったことに対応できる環境、こういったことで、何かうまく思いつかないが、広く発信する方法はないのかなという気がした。最初に言ったように、私もいつどうなるかわからないので、その辺も正直心配になってくる。これからも配慮をよろしく願いたい。

委員>コロナウイルスに関連してのことだが、病院や施設においては、通常

	<p>業務プラスそのコロナ対策ということで、大変なご苦勞をされているかと思 いますので、まずは感謝申し上げたい。今後もコロナウイルスに関しては、 対応や対策はしていかななくてはいけないことだと思うので、施設や病院、ま た町としても、その対策というものを全体としてやっていければと思う。少 しでも感染者を出さないかたちでやっていければというふうに、一人ひとり の意識を高めていければなということを感じている。引き続き、施設や病院 の方にはよろしく願いしたいと思う。</p> <p>委員>私も在宅で義理の父と母を介護した。期間は短かったが、やはり、父 も母も、介護保険でこういうサービスがあるんだよというのは、最初の頃は 全く知らなくて、私のほうも役場のほうから資料をいただいて、こういうふ うに手続きをするとこういうサービスが受けられるんだよというところか ら始めたので、たぶん、そういう状況の人というのは、まだ嵐山町の中にた くさんいると思うので、皆さん介護保険を払っているでこういうサービス があるんだよ、受けられるんだよというのを、もっと簡単にわかりやすく、 誰でもというふうな情報の発信の仕方を、今でもたぶん工夫して役場の方 はすごくやっていただいていると思うが、もっとそれをうまく、皆が安心して利 用できるように情報発信を進めることをお願いしたいのが1つである。それ と、今、施設の話だとか、病院のほうの話が出たが、これはたぶん、国とか でもいろいろ、今、ニュースとかでもやっていると思うが、PCR検査の優 先順位で、医療従事者だったり、介護職員だったりとか、高齢者だったりと かという、受けられる優先順位を、地域によっては、うちの地域はこうい うふうに優先で受けられるよ、費用も町役場のほうでこれだけ補助が出るよ というのは、それぞれ地域によって違うような、そういうニュースも流れてい るので、是非、嵐山町のほうでも、やっぱり高齢者が多いので、その辺の検 査のほうの優先順位とかを検討していただけたらと思う。</p> <p>会長>ありがとうございました。我々も参考にさせていただければと思う。 他に何かあるか。 (特になし) 議事はこれで終了とさせていただきます。</p>
6 閉 会	<p>課長>長時間にわたり、貴重な意見をありがとうございました。以上をもっ て嵐山町介護保険運営協議会第1回目を終了する。</p> <p>なお、次回は11月末を予定している。事前に会長と日程調整をして、資料 と共に開催通知を送りたいと思うので、引き続き、また、ご審議をよろしく お願いしたい。本日は大変ありがとうございました。</p>
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和2年11月25日 署名委員 <u>中澤 和英</u></p> <p>令和2年11月25日 署名委員 <u>山下 道子</u></p>	